

足の親指が外側に曲がっている(外反母趾)

外反母趾は足の親指が外側に曲がっている状態(図1)です。男性に比べて圧倒的に女性に多く、遺伝的な要因や足部の解剖学的な要因などの内的な要因と、ハイヒールや不適切な靴の使用や体重増加などの外的要因が病因とされています。変形が強くなると、2趾の下に潜り込んだり、上に乗り上がることもあります。靴の中で突出した部位が刺激させることで、図2のような部位の痛みの原因になります。



図1



図2



図3

外反母趾の重症度は、立位でのX線で母趾の中足骨と基節骨の角度(図3)で分類されます。正常では $9^{\circ} \sim 15^{\circ}$ で、 20° 以上が外反母趾と定義されています。 20° 以上は軽度、 30° 以上は中等度、 40° 以上は重度です。

母趾の外反ばかりが気になるかもしれませんが、実際には足の筋力低下、機能低下などによる母趾中足骨の内反・開張足(平べったく横に広がった足)を伴っており、母趾だけの問題ではなく、足部全体の問題が生じています。

外反母趾に対する手術治療は数多くの方法があります。どの方法であっても、再発、内反母趾、骨頭壊死などの合併症が比較的多い手術とされています。当科に受診された患者様には、まずは靴の指導や足部の筋力訓練、テーピング、足底挿板などの保存療法を行います。特に、足部の筋力・機能低下を伴っていることが多いので、筋力訓練が非常に重要です。ある程度変形が進行すると変形の矯正は困難ですが、痛みは改善できることも多いです。それでも痛みが取れない場合に限定して行っています。

当科では重症度などに応じていくつかの方法で手術を行っておりますが、なるべく体に低侵襲に変形を矯正するため、DLMO法(Distal lineal metatarsal osteotomy)による矯正骨切りを積極的に行っています。下記の症例では、内反小趾(バニオネット)の手術も同時に行っています(図4)。

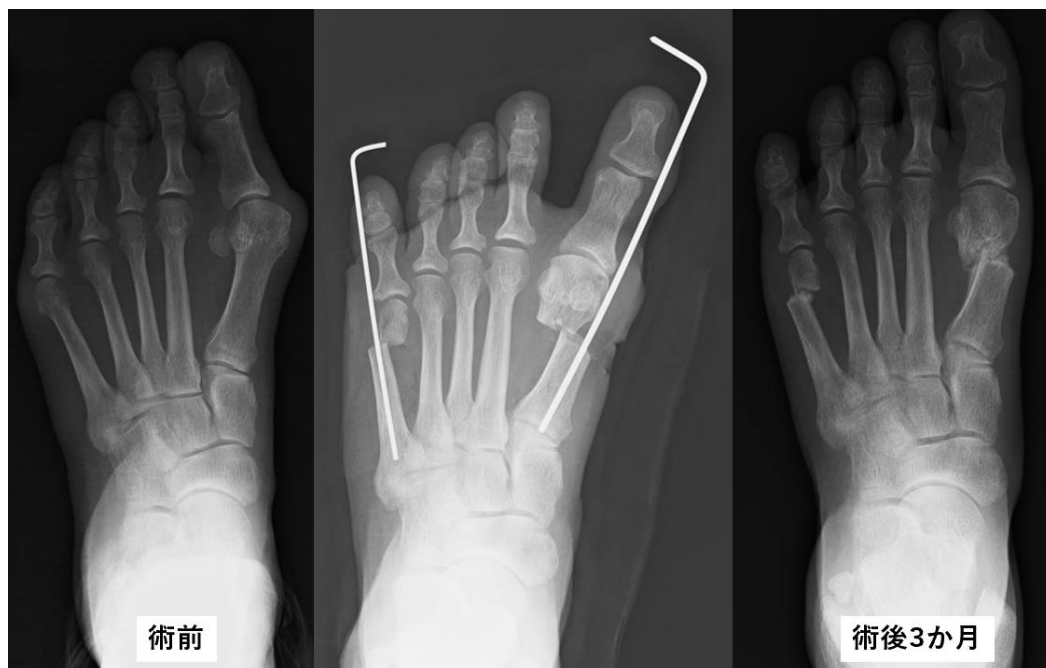


図4

基本的には軽度～中等度の症例に向けた方法ですが、以下のような重度な症例でも骨切りの工夫を行うことで矯正可能です(図5)。



図5

文責 第3整形外科部長 城戸 聡